

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立西朝明中学校

校長 藤谷 直行

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

「四日市版コミュニティスクール」として歩み始め、本年度は3年目となりました。下野・八郷西両地区などの支援のもと、「防災@にしあさけ」の開催や地域行事への積極的な参加を通して、下記のねらいに基づき「地域とともにある学校づくり」を目指して教育活動に取り組んでいます。

- (1) 地域とともにある学校をめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために協議会を設置し、今日的な教育課題について、学校外からの視点を加えて検討を進めることでより効果的な課題解決を図ります。
- (2) 教育活動を学校評価に起点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ改善に努めることで、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- (3) 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。
- (4) 様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、生徒の地域コミュニティづくりへの参画意識を高め、地域に貢献できる人材の育成につなげます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

<6月「防災@にしあさけ2022」>

自衛隊三重地方協力本部四日市地域事務所 所長 中島 健二 様より、「災害に備える」と題してご講演いただきました。

「命を守る最良の方法は？」「災害が起こった時はどう行動するか？」「災害が起こった後、どんな生活になるのか？そのことを想定した準備は？」等、具体的な話を交えながら話していただくことで、生徒自身が自分事として考える機会となりました。



第2部は学年別体験学習で、1年生「地域防災・環境マップ」の発表を地区市民センターや自治会長の方に聞いてもらうとともに、地域の方からのご意見を直接伺う機会もあり、改めて地域のことを考える機会となりました。2年生では「初期消火訓練」で、四日市消防「下野分団」と「八郷分団」の方々にお世話になりました。実際に地域に出て消火栓にホースをつないで放水する訓練を体験しました。3年生は、みえ減災啓発支援ネットのみなさんと、災害シミュレーションゲーム「クロスロード」を体験し、防災・減災の学

習をしました。「3,000人いる避難所に2,000食を確保した。この食糧を配るか配らないか」など二択から選び理由を考え、友だちの多くの価値観や視点に出会うことができました。今回の活動をとおして、生徒たちも防災への意識が高まり、「自分の身は自分で守ること」「災害時には自分たち中学生が積極的に動かなければならないこと」など多くを感じ、考え、これまでの自分の生活を振り返るよい機会となりました。



【1年生「地域防災・環境マップ」発



【2年生「初期消火訓練」】



【3年生「クロスロード」】

<11月ゲストティーチャーを招いての人権講演会>

いしが在宅ケアクリニックの石賀丈士医師のお話を全校生徒で聞きました。「いのちの授業」として自宅での看取りのお話や、未来を担う子どもたちへのメッセージを映像を交えながらお話していただきました。「将来を担うみなさんが活躍して、少しでもよりよい世界になるよう、お互いがんばりましょう」というメッセージが伝えられると、生徒の表情が引き締まりました。



<12月地域行事や活動への参加>

生徒会役員から「今年もボランティア活動に参加したいです。」との声があり、運営協議会や地区市民センター様のご協力のもと、今年も生徒が地域のみなさんと一緒に活動する貴重な機会を得ることができました。

毎年第1日曜日に実施される各地区の地域清掃活動（下野地区「朝明川クリーン作戦」と八郷西地区「クリーンアップ八郷」）に生徒会と有志、部活動単位で参加しました。地域の方からは生徒の一生懸命に活動する姿にお褒めのお言葉をたくさんいただきました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- ・昨年度から再開した「防災@にしあさけ」では、改めて「地域防災」の重要性を感じるとともに、多くの方に支えられて本行事が行われていることを実感した生徒もいました。学校と地域とのつながりを大切にした地域防災訓練の取組を今後も継続していきたいです。
- ・地域内のゲストティチャーや地域づくりの活動に関わる機会が増えたことで、生徒が地域を身近に感じる機会、地域貢献・社会参画につながる機会を得ることができました。



【SDGs 講演～四日市の現状・未来について～】

3 今後に向けて

- ・不登校生徒対策では、不登校生徒の学力保障についても引き続ききめ細やかに対応するとともに、関係機関や地域の民生委員等との連携も密にしながら対応する必要があります。
- ・生徒が抱える課題が多様化する中で、インクルーシブ教育システム推進による多様な教育ニーズへ対応するため、一人1台タブレットを有効活用し、不登校生徒への支援や学習に活かしていきます。
- ・地域行事に生徒が参加し、地域の方と交流できる活動は、生徒の自己有用感を高める意義あるものと考えています。よって、生徒が機会を見つけてボランティア活動に参加し、地域社会とつながれるような場を提供いただけるよう、学校から地域への働きかけを積極的に行いたいと考えています。また、そのような活動は、学校・家庭・地域の連携強化、生徒自身が地域や社会への貢献等により当事者として地域社会の担い手となることが期待できます。
- ・運営協議会を中核として、「防災@にしあさけ」や生徒会・有志や部活動単位での地域行事の参加を継続させるとともに、地域人材の活用を一層進めることで生徒の地域社会への参画意識を高めたいと考えています。また、次年度も学校行事等におけるPTAの支援も受けながら、学校・家庭・地域が協働した学校づくりを進めます。地域とのつながりを大切にした教育活動を実践し、社会に開かれた学校を目指していきます。

